

入域観光客統計概況

- 平成11年1月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 1月の入域観光客数は、334,400人で前年同月比105.1%（16,300人増）となり、1月の入域観光客数としては過去最高を記録した（これまでの最高記録318,100人／平成10年1月）。
- 2 空海路別にみると、空路は326,800人で前年同月比104.2%（13,300人増）、海路は7,600人で同165.2%（3,000人増）となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から120,700人（前年同月比107.6%）、阪神から65,500人（同100.8%）、福岡から45,600人（同116.3%）となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が120,700人（構成比36.1%）、次いで阪神65,500人（同19.6%）、福岡45,600人（同13.6%）、名古屋25,800人（同7.7%）、鹿児島11,800人（同3.5%）、札幌9,100人（同2.7%）、広島9,000人（同2.7%）、熊本4,600人（同1.4%）、仙台4,400人（同1.3%）、新潟3,600人（同1.1%）となった。外国客は8,700人（構成比2.6%）で前年同月比86.1%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因は次のとおりである。
 - (1) 低価格旅行商品の流通や航空運賃低減などの効果が持続していること。
 - (2) 新規航空路線開設による皆増があったこと。
平成10年4月27日開設のANK福岡・那覇線（2,700人）、平成10年10月1日開設のJTA高知・那覇線（900人）、平成10年11月1日開設のANK広島・石垣線（2,400人）及びJAS青森・那覇線（1,700人）
 - (3) 外国クルーズ船の就航による増加があったこと。
 - (4) SPEED 1999 Special Live（県外から4,000人）、日本心血管インターベンション学会（県外から1,200人）、（社）ジャパンケネルクラブ1999年FC九州インターナショナルドッグショー（県外から500人）などが開催されたこと。

入域観光客統計概況

- 平成11年2月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 2月の入域観光客数は341,100人で前年同月比109.9%(30,600人増)となり、2月の入域観光客数としては過去最高を記録した(これまでの最高記録310,500人/平成10年2月)。
- 2 空海路別にみると、空路は330,700人で前年同月比107.9%(24,200人増)、海路は10,400人で同260.0%(6,400人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から127,300人(前年同月比109.6%)、阪神から62,500人(同111.0%)、福岡から45,700人(同100.7%)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が127,300人(構成比37.3%)、次いで阪神62,500人(同18.3%)、福岡45,700人(同13.4%)、名古屋27,000人(同7.9%)、鹿児島9,700人(同2.8%)、札幌8,700人(同2.6%)、広島7,800人(同2.3%)、熊本4,700人(同1.4%)、仙台4,600人(同1.3%)、新潟3,100人(同0.9%)となった。外国客は16,700人(構成比4.9%)で前年同月比211.4%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因は次のとおりである。
 - (1) 低価格旅行商品の流通や航空運賃低減、マスメディアによる沖縄情報発信などの効果が持続していること。
 - (2) 新規航空路線開設による皆増があったこと。

平成10年4月27日開設のANK福岡・那覇線(2,400人)、平成10年10月1日開設のJTA高知・那覇線(800人)、平成10年11月1日開設のANK広島・石垣線(1,900人)及びJAS青森・那覇線(1,500人)
 - (3) 外国クルーズ船の就航による増加があったこと。
 - (4) 東アジア社会福祉セミナー(県外から400人)、横浜ベイスターズ日本一祝賀会(県外から400人)、九州青果食品小売商組合連合会(県外から300人)などが開催されたこと。

入域観光客統計概況

- 平成11年3月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 3月の入域観光客数は433,100人で前年同月比111.1%(43,300人増)となり、3月の入域観光客数としては過去最高を記録した(これまでの最高記録 389,800人/平成10年の3月)。
- 2 空海路別にみると、空路は420,300人で前年同月比110.0%(38,100人増)、海路は12,800人で同168.4%(5,200人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から165,300人(前年同月比111.3%)、阪神から81,400人(同110.9%)、福岡から58,200人(同112.4%)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が165,300人(構成比38.2%)、次いで阪神81,400人(同18.8%)、福岡58,200人(同13.4%)、名古屋34,800人(同8.0%)、鹿児島13,800人(同3.2%)、札幌12,100人(同2.8%)、広島8,700人(同2.0%)、仙台6,100人(同1.4%)、熊本4,600人(同1.1%)、新潟3,600人(同0.8%)となった。外国客は14,700人(構成比3.4%)で前年同月比216.2%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因は次のとおりである。
 - (1) 低価格旅行商品の流通や航空運賃低減、マスメディアによる沖縄情報発信などの効果が持続していること。
 - (2) 新規航空路線開設による皆増があったこと。

平成10年4月27日開設のANK福岡・那覇線(3,000人)、平成10年10月1日開設のJTA高知・那覇線(900人)、平成10年11月1日開設のANK広島・石垣線(2,500人)及びJAS青森・那覇線(2,000人)
 - (3) 外国クルーズ船の就航による増加があったこと。
 - (4) GLAYコンサート(県外から1,700人)、「ゆかる日、まさる日、さんしんの日」生放送(県外から1,500人)、全九州卓球選手権大会(県外から400人)などが開催されたこと。

入域観光客統計概況

- 平成11年4月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 4月の入域観光客数は348,300人で前年同月比108.8%(28,100人増)となり、4月の入域観光客数としては過去最高を記録した(これまでの最高記録 320,200人/平成10年の4月)。
- 2 空海路別にみると、空路は336,300人で前年同月比106.4%(20,300人増)、海路は12,000人で同285.7%(7,800人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から132,100人(前年同月比104.4%)、阪神から72,300人(同112.3%)、福岡から43,800人(同104.0%)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が132,100人(構成比37.9%)、次いで阪神72,300人(同20.8%)、福岡43,800人(同12.6%)、名古屋27,300人(同7.8%)、鹿児島12,000人(同3.4%)、札幌5,100人(同1.5%)、広島5,900人(同1.7%)、仙台4,400人(同1.3%)、熊本3,600人(同1.0%)、新潟3,200人(同0.9%)となった。外国客は19,000人(構成比5.5%)で前年同月比215.9%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因は次のとおりである。
 - (1) 低価格旅行商品の流通や航空運賃低減、マスメディアによる沖縄情報発信などの効果が持続していること。
 - (2) 新規航空路線開設による増があったこと。
 - 平成10年4月27日開設のANK福岡・那覇線(1,600人)
 - 平成10年10月1日開設のJTA高知・那覇線(800人)
 - 平成11年4月1日開設のJAS関空・那覇線(3,400人)
 - (3) 大都市圏からの入り込みが増加したこと(東京、名古屋、阪神の合計で16,100人の増)
 - (4) 外国クルーズ船の就航による増加があったこと。
 - (5) STARDUSTREVIEWコンサート(県外から1,700人)などが開催されたこと。

入域観光客統計概況

- 平成11年5月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 5月の入域観光客数は327,800人で前年同月比112.2%(35,600人増)となり、5月の入域観光客数としては過去最高を記録した(これまでの最高記録 292,200人/平成10年の5月)。
- 2 空海路別にみると、空路は314,700人で前年同月比110.0%(28,700人増)、海路は13,100人で同211.3%(6,900人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から118,300人(前年同月比109.0%)、阪神から65,800人(同112.1%)、福岡から44,500人(同111.0%)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が118,300人(構成比36.1%)、次いで阪神65,800人(同20.1%)、福岡44,500人(同13.6%)、名古屋22,400人(同6.8%)、鹿児島14,900人(同4.5%)、広島6,300人(同1.9%)、札幌4,000人(同1.2%)、仙台4,000人(同1.2%)、熊本3,600人(同1.1%)、新潟3,200人(同1.0%)となった。外国客は19,700人(構成比6.0%)で前年同月比201.0%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因は次のとおりである。
 - (1) 低価格旅行商品の流通や航空運賃低減、マスメディアによる沖縄情報発信などの効果が持続していること。
 - (2) 新規航空路線開設による増があったこと。
 - 平成10年10月1日開設のJ T A高知・那覇線(1,000人)
 - 平成11年4月1日開設のJ A S関空・那覇線(3,600人)
 - (3) 大都市圏からの入り込みが増加したこと(東京、阪神、福岡の合計で21,300人の増)
 - (4) 外国クルーズ船の就航による増加があったこと。
 - (5) 第52回全国盲人福祉大会・沖縄大会(県外から1,600人)、99アジア平和芸能フェスティバル(県外から2,625人)などが開催されたこと。

入域観光客統計概況

- 平成11年6月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 6月の入域観光客数は350,000人で前年同月比114.2%(43,500人増)となり、6月の入域観光客数としては過去最高を記録した(これまでの最高記録 306,500人/平成10年の6月)。
- 2 空海路別にみると、空路は335,800人で前年同月比111.3%(34,000人増)、海路は14,200人で同302.1%(9,500人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から140,600人(前年同月比113.6%)、阪神から68,600人(同110.1%)、福岡から47,700人(同115.5%)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が140,600人(構成比40.2%)、次いで阪神68,600人(同19.6%)、福岡47,700人(同13.6%)、名古屋23,900人(同6.8%)、鹿児島12,100人(同3.5%)、広島6,200人(同1.8%)、仙台4,100人(同1.2%)、熊本3,600人(同1.0%)、岡山3,500人(同1.0%)となった。外国客は24,700人(構成比7.1%)で前年同月比170.3%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因は次のとおりである。
 - (1) 低価格旅行商品の流通や航空運賃低減、マスメディアによる沖縄情報発信などの効果が持続していること。
 - (2) 新規航空路線開設による増があったこと。
平成10年10月1日開設のJ T A高知・那覇線(900人)
平成11年4月1日開設のJ A S関空・那覇線(3,500人)
 - (3) 大都市圏からの入り込みが増加したこと(東京、阪神、福岡の合計で29,500人の増)
 - (4) 外国クルーズ船の就航による増加があったこと。
 - (5) 99マルチメディアフェア沖縄(県外から5,500人)、99連合平和オキナワ集会(県外から1,000人)などが開催されたこと。
 - (6) 2000年サミットの沖縄開催決定により全国から沖縄に関心が向けられていること。

入域観光客統計概況

- 平成11年7月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 7月の入域観光客数は440,700人で前年同月比110.2%(40,800人増)となり、7月の入域観光客数としては過去最高を記録した(これまでの最高記録 399,900人/平成10年の7月)。
- 2 空海路別にみると、空路は418,900人で前年同月比108.4%(32,500人増)、海路は21,800人で同161.5%(8,300人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から184,600人(前年同月比113.3%)、阪神から86,300人(同102.4%)、福岡から58,100人(同111.9%)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が184,600人(構成比41.9%)、次いで阪神86,300人(同19.6%)、福岡58,100人(同13.2%)、名古屋33,000人(同7.5%)、鹿児島16,000人(同3.6%)、広島5,300人(同1.2%)、仙台5,000人(同1.1%)、熊本4,300人(同1.0%)、岡山3,600人(同0.8%)となった。外国客は27,200人(構成比6.2%)で前年同月比147.0%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因は次のとおりである。
 - (1)「観光・リゾート沖縄」のブランド化の進展。
 - (2) 低価格旅行商品の流通や航空運賃低減、マスメディアによる沖縄情報発信などの効果が持続していること。
 - (3) 新規航空路線開設による増があったこと。
 - 平成10年10月1日開設のJTA高知・那覇線(800人)
 - 平成11年4月1日開設のJAS関空・那覇線(4,000人)
 - (4) 首都圏からの入り込みが増加したこと(21,600人の増)
 - (5) 外国クルーズ船の就航による増加があったこと。
 - (6) 2000年サミットの沖縄開催決定により全国から沖縄に関心が向けられていること。

入域観光客統計概況

- 平成11年8月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 8月の入域観光客数は522,600人で前年同月比106.4%(31,400人増)となり、8月の入域観光客数としては過去最高を記録した(これまでの最高記録 491,200人/平成10年の8月)。
月間の入域観光客数が50万人を越えたのは、今回が初めてである。
- 2 空海路別にみると、空路は499,500人で前年同月比106.5%(30,700人増)、海路は23,100人で同103.1%(700人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から202,600人(前年同月比107.0%)、阪神から112,600人(同111.5%)、福岡から69,800人(同105.3%)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が202,600人(構成比38.8%)、次いで阪神112,600人(同21.5%)、福岡69,800人(同13.4%)、名古屋43,900人(同8.4%)、鹿児島21,800人(同4.2%)、広島7,500人(同1.4%)、熊本5,900人(同1.1%)となった。外国客は24,900人(構成比4.8%)で前年同月比104.6%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因は次のとおりである。
 - (1)「観光・リゾート沖縄」のブランド化の進展。
 - (2)低価格旅行商品の流通や航空運賃低減、マスメディアによる沖縄情報発信などの効果が持続していること。
 - (3)新規航空路線開設による増があったこと。
平成10年10月1日開設のJTA高知・那覇線(1,000人)
平成11年4月1日開設のJAS関空・那覇線(3,800人)
 - (4)大都市圏からの入り込みが増加したこと(東京、阪神、福岡の合計で28,400人の増)
 - (5)2000年サミットの沖縄開催決定により全国から沖縄に関心が向けられていること。

入域観光客統計概況

- 平成11年9月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 9月の入域観光客数は373,500人で前年同月比106.3%(22,200人増)となり、9月の入域観光客数としては過去最高を記録した(これまでの最高記録 351,300人/平成10年の9月)。
- 2 空海路別にみると、空路は357,200人で前年同月比103.6%(12,400人増)、海路は16,300人で同250.8%(9,800人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から168,100人(前年同月比104.9%)、阪神から69,800人(同104.6%)、福岡から48,900人(同106.8%)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が168,100人(構成比45.0%)、次いで阪神69,800人(同18.7%)、福岡48,900人(同13.1%)、名古屋24,800人(同6.6%)、鹿児島13,400人(同3.6%)、広島5,100人(同1.4%)となった。外国客は19,300人(構成比5.2%)で前年同月比214.4%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因は次のとおりである。
 - (1)「観光・リゾート沖縄」のブランド化の進展。
 - (2)低価格旅行商品の流通や航空運賃低減、マスメディアによる沖縄情報発信などの効果が持続していること。
 - (3)新規航空路線開設による増があったこと。
 - 平成10年10月1日開設のJTA高知・那覇線(900人)
 - 平成11年4月1日開設のJAS関空・那覇線(3,500人)
 - (4)外国クルーズ船の就航による増加があったこと。
 - (5)2000年サミットの沖縄開催決定により全国から沖縄に関心が向けられていること。
- 6 台風18号により、ほとんどの空海路便が欠航し、22日~24日の3日間で県内において3万人以上の利用者に影響が出た。

入域観光客統計概況

- 平成11年10月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 10月の入域観光客数は373,500人で前年同月比125.3%(75,500人増)となり、10月の入域観光客数としては過去最高を記録した(これまでの最高記録308,600人/平成9年の10月)。
- 2 空海路別にみると、空路は361,100人で前年同月比122.7%(66,700人増)、海路は12,400人で同344.4%(8,800人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から154,400人(前年同月比125.0%)、阪神から68,700人(同125.6%)、福岡から50,100人(同116.0%)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が154,400人(構成比41.3%)、次いで阪神68,700人(同18.4%)、福岡50,100人(同13.4%)、名古屋24,700人(同6.6%)、鹿児島13,400人(同3.6%)、広島5,700人(同1.5%)、札幌5,500人(同1.5%)、仙台5,400人(同1.4%)、熊本4,500人(同1.2%)となった。外国客は15,700人(構成比4.2%)で前年同月比161.9%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因は次のとおりである。
 - (1)「観光・リゾート沖縄」のブランド化の進展。
 - (2) 低価格旅行商品の流通や航空運賃低減、マスメディアによる沖縄情報発信などの効果が持続していること。
 - (3) 新規航空路線開設による増があったこと。
平成11年4月1日開設のJAS関空・那覇線(1,000人)
 - (4) 外国クルーズ船の就航による増加があったこと。
 - (5) 2000年サミットの沖縄開催決定により全国から沖縄に関心が向けられていること。
 - (6) 全国老人福祉施設大会(県外から2,250人)、第51回中小企業団体全国大会(県外から3,000名)などが開催されたこと。

入域観光客統計概況

- 平成11年11月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 11月の入域観光客数は371,900人で前年同月比112.0%(39,900人増)となり、11月の入域観光客数としては過去最高を記録した(これまでの最高記録338,500人/平成9年の11月)。
- 2 空海路別にみると、空路は359,700人で前年同月比111.1%(35,800人増)、海路は12,200人で同150.6%(4,100人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から142,300人(前年同月比114.9%)、阪神から65,700人(同118.4%)、福岡から52,200人(同106.5%)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が142,300人(構成比38.3%)、次いで阪神65,700人(同17.7%)、福岡52,200人(同14.0%)、名古屋26,500人(同7.1%)、鹿児島12,900人(同3.5%)、札幌8,900人(同2.4%)、広島8,200人(同2.2%)、仙台5,400人(同1.5%)、熊本4,500人(同1.2%)、新潟4,400人(同1.2%)となった。外国客は17,000人(構成比4.6%)で前年同月比154.5%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因は次のとおりである。
 - (1) 「観光・リゾート沖縄」のブランド化の進展。
 - (2) 低価格旅行商品の流通や航空運賃低減、マスメディアによる沖縄情報発信などの効果が持続していること。
 - (3) 新規航空路線開設による増があったこと。
平成11年4月1日開設のJAS関空・那覇線(2,400人)
 - (4) 外国クルーズ船による観光客数の増加があったこと。
 - (5) 2000年サミットの沖縄開催決定により全国から沖縄に関心が向けられていること。
 - (6) 第13回法人会全国青年の集い(県外から2,500人)、第36護憲大会(県外から2,000名)、平成11年度溶接学会秋季大会(県外から1,100名)、第34回組合区画整理研究会(県外から1,000人)などが開催されたこと。

入域観光客統計概況

- 平成11年12月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 12月の入域観光客数は341,800人で前年同月比107.9%(25,000人増)となり、12月の入域観光客数としては過去最高を記録した(これまでの最高記録316,900人/平成9年の12月)。
- 2 空海路別にみると、空路は330,400人で前年同月比106.9%(21,400人増)、海路は11,400人で同146.2%(3,600人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から123,100人(前年同月比105.1%)、阪神から65,300人(同107.8%)、福岡から49,500人(同122.8%)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が123,100人(構成比36.0%)、次いで阪神65,300人(同19.1%)、福岡49,500人(同14.5%)、名古屋29,800人(同8.7%)、鹿児島9,900人(同2.9%)、広島9,900人(同2.9%)、札幌5,400人(同1.6%)、仙台4,900人(同1.4%)、熊本4,300人(同1.3%)、新潟3,300人(同1.0%)となった。外国客は15,400人(構成比4.5%)で前年同月比142.6%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因は次のとおりである。
 - (1) 「観光・リゾート沖縄」のブランド化の進展。
 - (2) 低価格旅行商品の流通や航空運賃低減、マスメディアによる沖縄情報発信などの効果が持続していること。
 - (3) 新規航空路線開設による増があったこと。
平成11年4月1日開設のJAS関空・那覇線(2,800人)
 - (4) 外国クルーズ船による観光客の増加があったこと。
 - (5) 2000年サミットの沖縄開催決定により全国から沖縄に関心が向けられていること。